

大阪市立中学校生徒を対象としたヤングケアラー実態調査 (家庭生活と学校生活に関する調査)に係る調査結果速報のポイント

(前提について)

- ・速報の値等は、データ入力完了時点の数値をもとに作成（確定数値の公表は6月頃を予定）
- ・令和2年度に実施された国全国調査と本調査では、尋ね方、ヤングケアラーとみなす条件が異なるため、単純な数値の比較はできない（国全国調査の数値は参考に記載したもの）。
- ・ヤングケアラーとみなす条件は「ケアを要する家族がいる」ということ、その上で「ケアを担っている」ということの2つが挙げられ、その中には軽度のケースから重度のケースまで存在している。
- ・本調査では、第1の条件である家族にケアが必要な人がいるかを尋ね、そのうえで第2の条件である自分自身がケアを担っているかを尋ねており、いずれの質問にも「はい」と回答したものをヤングケアラーとみなして集計している。
（参考）国全国調査では、「家族の中にあなたが世話をしている家族がいるか」を尋ね、「お世話とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話」と説明を加えている。ある一定のレベルの世話を担うケースを対象としていること、ケアを要する家族の有無については厳密には尋ねていないことが本調査と異なる点である。

(調査手法について)

- ・授業時間等を活用して実施（無記名・自記式質問紙調査）
（参考）国全国調査：QRコード等を記載した調査概要を配布、生徒が個別にWeb回答

(調査結果について)

- ・回収数が多く（46,321人）、有効回答率も高い（45,340人：87.3%）
- ・本調査上のヤングケアラーの存在割合は9.2%
（1か月に数日、1時間未満のケアなど、ケア負担があまり大きくないと考えられるケースを多く含む）
- ・週に1日以上ケアしているケースに限定した場合、存在割合は6.3%
- ・学校がある日に1時間以上ケアをしているケースに限定した場合、存在割合は3.3%
- ・学校がない日では学校がある日と比べて、ケア時間が長時間になる傾向があり、8時間以上が1割近く（かなりの負荷がかかっていると考えられるケースも確認）

⇒ 市域の実情を詳細に把握した基礎データを回収できたため、引き続き、専門家研究チームと調査結果の分析を進める（公表6月頃）